

<p>法人（事業所）理念</p>	<p>障がい児が、日常生活における基本動作を習得し、及び集団生活に適應することが出来るよう、当該障がい児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に於いて適切且効果的な指導及び支援を行う。</p>					
<p>支援方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 本人支援 子どもたちの全人的な発達促進を目的とした随意運動プログラムを基本として支援を実施する。随意運動プログラムにより、外部からの刺激（五感覚情報）を中枢神経に取り入れ、それを調整して表現できるように支援することで、「生きる力」、「喜びや劣ることを共有できる力」を育てる。 また、情緒面の安定、知的発達（思考、理解、判断、決断、企画）を促進することを主として、「友達を作る力」「社会の中で生活が出来る力」「社会の中で自分を出せる力」「考える力」「将来を思い浮かべる力」「聞く力」「待つ力」「健康に過ごす力」「自分の事は自分でする力」「挑戦する力」の育成に努める。 家族支援 家族ウェルビーイングを目的とし、保護者の不安や悩み・葛藤について理解することを通して保護者が安心して子育ての喜びや充実感を感じることが出来るよう支援する。 子どもの障害の特性を探り、かかわりの工夫や信頼関係・愛着関係の形成に向けた支援を行い、親子関係及びきょうだい関係構築する。 移行支援 子どもの成長・発達を支援しながら、ライフステージの変化に伴う保護者の不安の軽減をはかるとともに、学校、就労先との連携をすすめるスムーズに移行できるように支援する。 子どもたちの将来を見据え、「保護者や子どもとの意向」を把握するとともに「子どもの特性や能力」「地域の社会資源」の状況を鑑み「子どもの最善の利益」の保障を念頭に丁寧に移行を支援する。 地域支援・連携 地域全体で子どもを育てていくために各機関（子育て施設・教育機関、公的機関専門職、地域住民）の情報を取り入れ、調整し連携する。 					
<p>営業時間</p>	<p>10時08分</p>	<p>時 0分から</p>	<p>19時17分</p>	<p>時 0分まで</p>	<p>送迎実施の有無</p>	<p>あり</p>
	<p>小学生</p>		<p>中学生</p>		<p>高校生</p>	
<p>健康・生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。 睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、身の回りを清潔にするなどの基本的な生活習慣を形成することが出来るよう支援する。また、健康状態を維持し、生きる力を育て、改善に必要な生活リズムが身につくよう支援する。 食育の育成、楽しく食事ができる。咀嚼嚥下、姿勢保持、手指の運動機能、目と手の協応、さらに衣服の調整、室温の調整、換気、病気の予防や安全への配慮、支援を行う。 自分の行動や感情を調整し、他者に対して主体的に働きかけるなど、生活しやすい環境にするための支援を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きなど自分で時間を決めて規則正しい生活が出来よう支援する。 思春期になり、自己肯定感や自己存在感を高め集団の中で居場所を感じ、ともに生活する仲間や支援員との間に自己表現が出来ような平和的で、安定的な人間関係を築けるよう支援する。 遊びを通して、人生設計、将来の事を考えるられるよう支援する。 性教育を受ける、命の大切さも一緒に相手に大切にする事を教える。 買い物や調理活動など生活体験が出来よう支援する。 一日の流れなど自分で生活の時間を考え決めて生活が出来よう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠時間や食事など自分の健康を自分で考え整えられるよう支援する。 精神的な安全、健康、安定をつくりだすよう工夫する。 困難な状況に適應し、対応できる力が育つよう支援する。 社会に出ること、一人で生活する力が身につくよう支援する。 社会的文化に触れる機会が出来よう工夫する。 事業所での生活を自分たちで組み立て自主的、自治的な生活をおくれるよう支援する。 進級する期待感や卒業に向けての気持ちが膨らむよう支援する。 	
<p>運動・感覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢、下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持、強化を図るよう支援する。 五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）及び固有受容覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。情報を収集し、状況を把握して行動が出来よう支援する。 日常生活に必要な移動能力や、事業所外での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。 感覚の個性に対する細やかな支援をすることによって子どもの意欲を育てる。 					
<p>本人支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 随意運動（粗大・巧緻運動）を複雑化し、さらに仰臥位、体支持などで強化していく。 個々の運動発達の遅れを把握し、その子に合った粗大運動をもとに遊び（固定遊具、マット、巧技台、三輪車、フラフープ、なわ、ボールなど）を楽しむよう支援する。 安心できる環境の中で思いっきり体を動かすことが出来るよう支援する。（ドッチボール、サッカー、野球、バスケ、卓球、鬼ごっこ、陣取り、縄跳び等） 異年齢児と関わりながら年上の子へ憧れを持ち、活動が出来よう支援する。 伝承遊び（こま、お手玉、けん玉など） 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所外での活動に参加し、色々な体験、経験が出来よう支援する。 随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を習得し、子どもの意欲を引き出す。 達成感や充実感を味わえるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を習得し、子どもの意欲を引き出す。 バス、電車など公共交通機関を利用する体験が出来よう支援する。 店での行動、施設での行動など公共の場での行動が身につくよう支援する。 達成感や充実感を味わえるよう支援する。 日常生活に必要な動作を確立し、自分の得意とするものを見つけれられるよう支援する。 			
<p>認知・行動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって来る情報を適切に取得し、処理できるよう支援する。また、こだわりや偏食などに対する支援を行う。 過去に取得した情報と現在取得した情報を照らし、環境や状況を把握、理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることが出来るよう支援する。 物の機能や属性、形、色、音、数、量、空間、時間などの概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の妨げがなくなり活用出来るよう支援する。 適切な行動への対応の支援を行う。 					
<p>言語コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遊び、生活を通して自主性、社会性、創造性を育めるよう支援をする。 善悪が分かることになり、理解が深まり行動出来るよう支援する。 公共の場における行動が身につくよう支援する。 遊びや学びの活動を意欲的に作り出す工夫（競争の遊び、模倣遊び、変身の遊び、連遊びなど）や支援する。 さまざまな体験を通して子どもたちの自主性を育て、自発的な遊びができるよう支援する。 自分で遊び、それをやり遂げることで喜びを味わえるよう支援する。 健康な体と豊かな感性をもった心をもつよう支援する。 生活の中でのルールを知り、守れるよう支援する。 ルールのある遊びを通して役割を理解し、行動できるように支援する。 随意運動プログラムを通して空間認知を育み、プログラムに応じて身体を意識的に用いることができるよう支援する。 製作活動 はさみ、のり、テープ、ホッチキス、カッターなどを使う、ぬりえ、お絵描きなど 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での遊びを通して、より高度な技の獲得や新しい遊びへ関心をもち、やる気を持つよう支援する。 遊びの選択肢を増やし、遊びのおもしろさや楽しさの追及が出来よう支援する。 事業所内でのルールを中学生から小学生に伝え、守るよう教える、自分も守れるよう支援する。 社会のルールを知り、守れるよう支援する。 他者の気持ちを理解し、折り合いをつけることを覚えられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールを知り、守れるよう支援する。 社会に適應できるよう支援する。 他者の気持ちを理解し、折り合いをつけることを覚えられるよう支援する。 その時々に応じて臨機応変に行動できる規範意識をもてるよう支援する。 			
<p>人間関係社会性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で互い人間関係ができるように支援員が間に入り、代弁するなどして支援する。 自分の考えを表現できる力をつけるよう支援する。 遊びのトラブルを自分たちで解決できるように支援する。 友達と共に過ごす中で、教えたり、教えられるりしながら、他者に対する思いやりの心や信頼関係が育つよう支援する。 随意運動プログラムを通して支援員とのコミュニケーションを図り、状況を的確に把握する力を養う。 遊びの例 家族ごっこで言葉のやりとりを楽しむ かた、しりとり、なぞなぞ、クイズ、歌、文字カードなど 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の表情や態度から気持ちを汲み取ることが出来るよう支援する。 相手の気持ちに気づき、言葉を遣って話せるよう支援する。 困っている時に助けが求められるよう支援する。 遊びの例 連想ゲーム、人生ゲーム、手紙を書くなど 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちに気づき、言葉を選んで話せるよう支援する。 相手の表情や態度から気持ちを汲み取ることが出来るよう支援する。 自分の行動、言動に責任をもって発言、行動できるよう支援する。 困難な状況になった時に助けを求められるよう支援する。 			
<p>家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援。 家庭の子育てに関する困りごとに対する相談援助。 子どもの発達上の関わり方、助言、提案。 安心して預けられるよう家庭訪問や面談を通して事業所での子育てを伝える。 家族のレスパイトの時間の確保や就労などの預かりニーズに対応する。 	<p>移行支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが通う予定の学校への移行や将来的な移行を見据えた支援方針、支援内容の共有や子どもとの状態、親の意向、支援方法について伝達、情報共有する。 受け入れ態勢づくりの協力。進路など本人や家族への相談。 放課後等デイサービス支援計画の作成または見直しに関する会議を開催する。 進級、進学、就労に向けて、子どもの不安を受けとめ心の安定をはかり、期待とあこがれの気持ちを大切にできるように支援する。 			
<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが通う予定の学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整に関する相談援助。 子どもを担当する保健師や子どもが通う居場所等との情報連携や調整。 虐待が疑われる場合は、児童相談所や子ども家庭センターとの情報連携。 民生委員、主任児童委員等地域の関係者との連携。会議の開催。 地域行事に参加することで、公共マナーが身につけられるよう支援する。 	<p>職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どものウェルビーイングを目指した理念の共有を図る。 必要な知識、技術を習得し、それらのスキルを維持・向上するように努力する。 遊び自体の中に子どもの成長・発達を促す重要な要素が含まれる随意運動プログラムを実践する。挑戦や失敗を含め屋内外を問わず自由な遊びを行い、体験したことや興味を持ったことに取り組みの機会を工夫する。 日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動を工夫する。子どもが意欲的に関われるような遊び、成功体験の積み増し、自己肯定感を育てるよう支援する。社会性を育て、将来の自立や地域活動を見据えた活動を工夫する。 			
<p>主な行事等</p>	<p>もちつき・豆まき・クリスマス・夏祭り</p>					